

岡谷市の上水道について

岡谷市の上水道は、昭和 27 年の創設以来、大正末期から昭和初期にかけて建設された湊水道、岡谷水道、小井川水道を始めとし、小坂水道、長地水道、川岸水道を統合しつつ、人口の増加、産業の振興に呼応して市民生活を支え、長年にわたり、安全で良質な水道水を可能な限り安い料金で、安定して供給する体制の構築に努めてきました。今後も、快適で安全な生活環境を持続できるように、運営体制や財務・経営システムの見直しを進め、経営の効率化による企業の体質基盤強化に努めていきます。

令和 7 年度末では、給水人口 45,404 人で、普及率は 99.7%となっています。更新時期を迎える水道施設については、水の有効活用のための漏水防止や安定給水の確保はもとより、災害対策を考慮した更新や、あわせて取水、浄水、配水施設の改廃や配水区域の再編成など総合的な方策を検討する必要があります。

岡谷市の上水道施設について（令和 7 年度末）

管路延長：約 353 km（管径 75 mm～450 mm）

水 源：14 箇所

配 水 池：15 箇所

上水道管路の管種と延長

鋳鉄管：約 1 km

ダクタイル鋳鉄管：約 148 km

鋼管：約 2 km

塩化ビニール管：約 170 km

ポリエチレン管：約 30 km

ステンレス管：約 1 km

その他：約 1 km

水道事業基本計画

国において、全国の水道事業体に共通する課題に的確に対応していくため、平成 16 年 6 月に「水道ビジョン」を策定し、これからの水道事業体のあるべき姿として、「安心」・「安定」・「持続」・「環境」・「国際」の 5 つを長期的な政策目標に掲げました。

このような状況の中で、安全で良質な水道水を将来にわたって安定して供給し続けるため、現状の課題を明らかにするとともに、今後の目指すべき方向を明らかにする「岡谷市水道事業基本計画」を平成 19 年 3 月に策定しました。

基本計画を策定してから 7 年が経過し、国の新たなビジョンとして「新水道ビジョン」が策定されたことも踏まえ、現行の岡谷市水道ビジョンの実施状況の確認と、実効性の高いビジョンに改善するため、平成 27 年 3 月に「岡谷市水道事業基本計画」を改訂しました。

本計画は、アセットマネジメントによる中長期的な将来を見据えた上で、今後 20 年（平成 27 年度～令和 16 年度）にわたる水道事業運営に関する課題と解決の方向性を示します。

本計画に示した目標は、今後、個別計画として具体化を検討するとともに、財政状況や利用者のニーズ、社会情勢等の変化を踏まえ、定期的な見直しを図っていきます。

これまでの経過

〈平成 18 年度〉

- ・ 岡谷市水道事業基本計画を策定

〈平成 26 年度〉

- ・ 岡谷市水道事業基本計画を改訂

〈平成 29 年度〉

- ・ 間下減圧槽築造工事

減圧槽築造工（ステンレス鋼製 有効容量 9 m³） 1 基

〈令和 3 年度〉

- ・ 今井上向配水池築造工事

配水池築造工（ステンレス鋼製 有効容量 4,800 m³） 1 基

〈令和 4 年度〉

- ・ 宗平寺水源ポンプ場築造工事

管理棟築造工（RC 造 床面積 92.88 m²） 1 式

〈令和 5 年度〉

- ・ 今井上向水系 減圧弁設置工事

減圧弁設置工（φ 400） 1 基

〈令和 6 年度〉

・片間町ポンプ場築造工事

管理棟築造工 (RC 造 床面積 252.96 m^2) 1 式

浄水池築造工 (ステンレス鋼製 有効容量 700 m^3) 1 基

・河原口ポンプ場築造工事

取水ピット設置工 (RC 造) 1 式

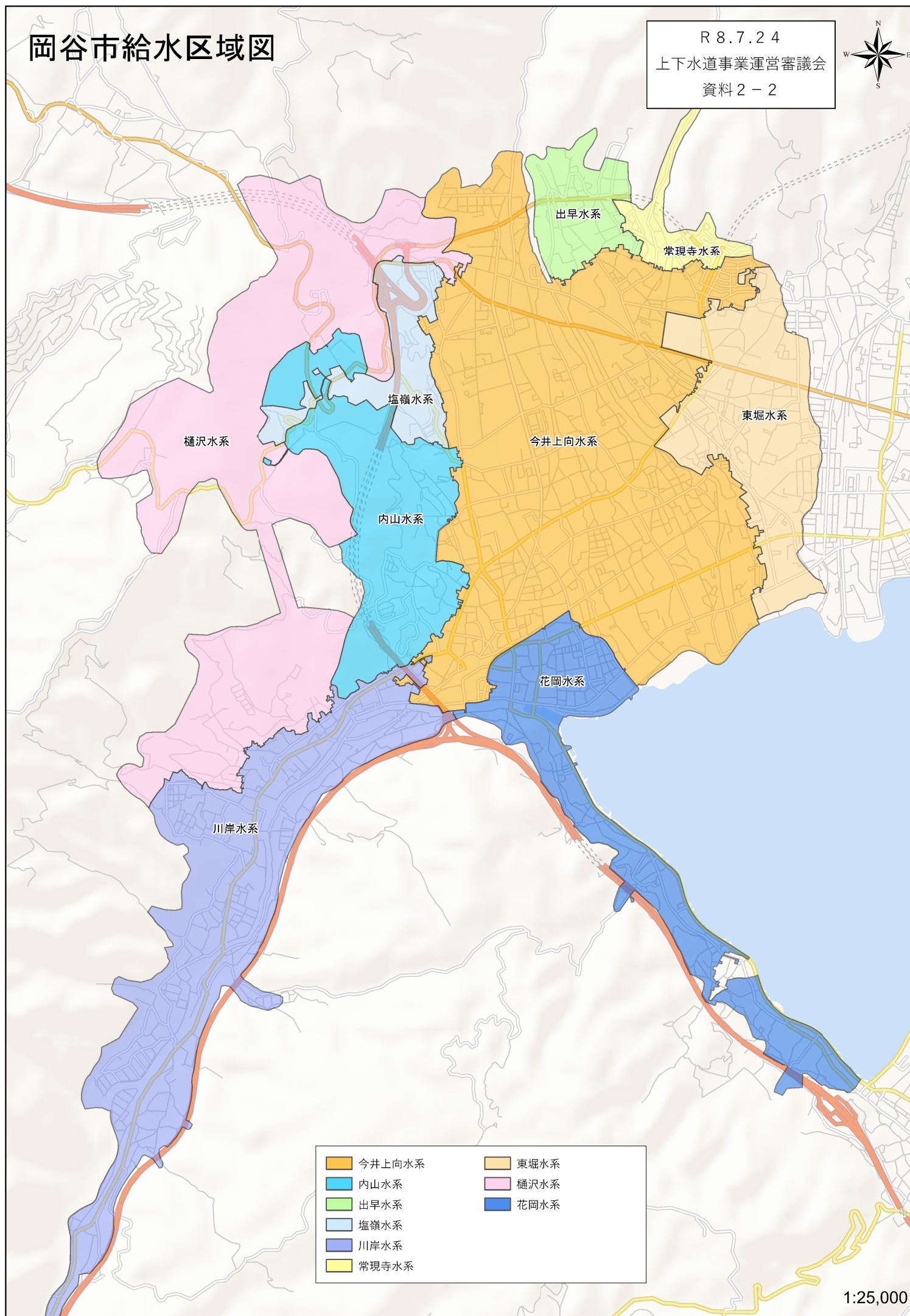
・横河川水管橋築造工事

水管橋 (三角トラス補鋼形式 延長 51.7 m)

重力式橋台 左岸右岸 2 基

岡谷市給水区域図

R 8.7.2 4
上下水道事業運営審議会
資料 2 - 2

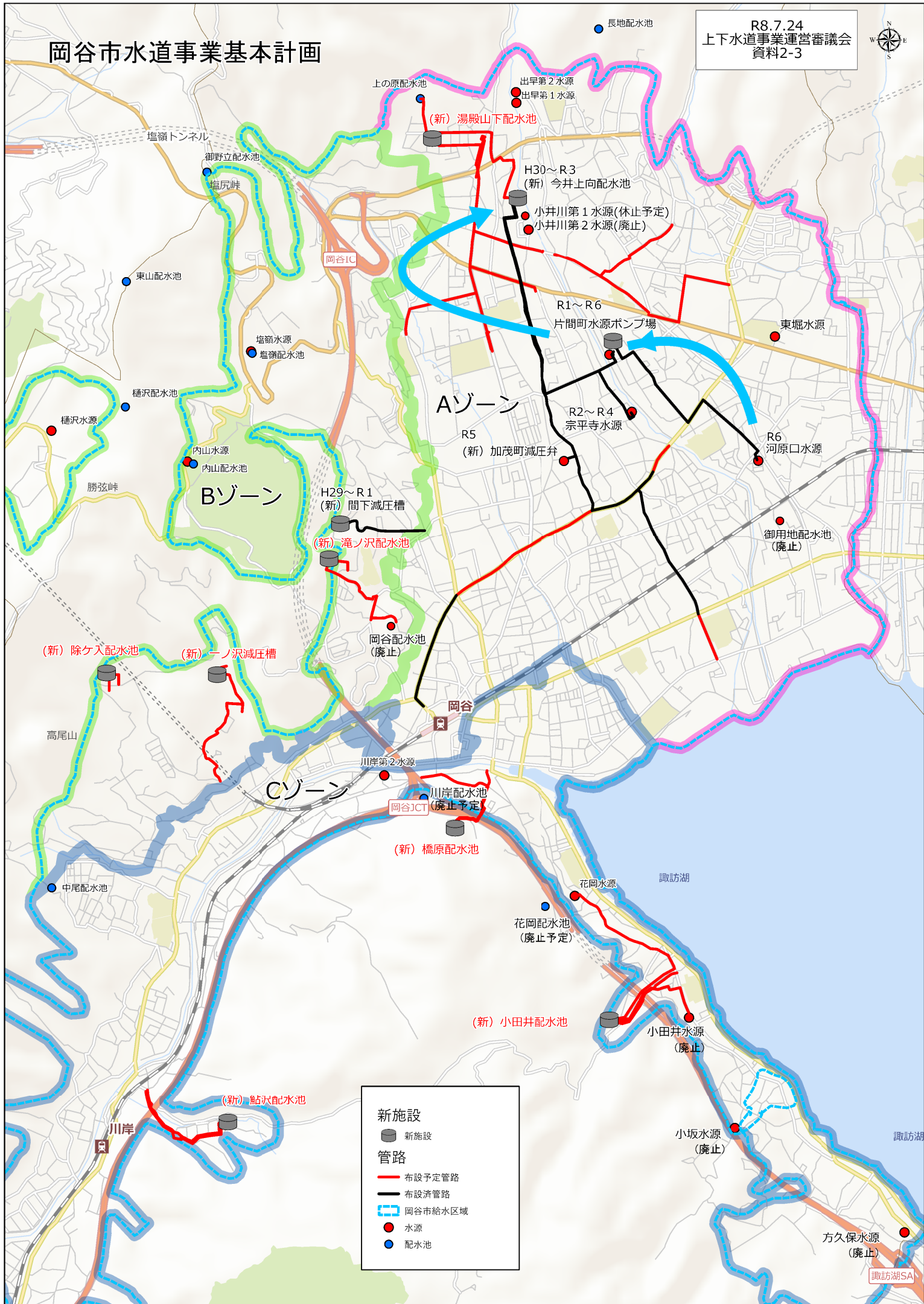


- | | |
|--------|------|
| 今井上向水系 | 東堀水系 |
| 内山水系 | 槌沢水系 |
| 出早水系 | 花岡水系 |
| 塩嶺水系 | |
| 川岸水系 | |
| 常現寺水系 | |

1:25,000

岡谷市水道事業基本計画

R8.7.24
上下水道事業運営審議会
資料2-3



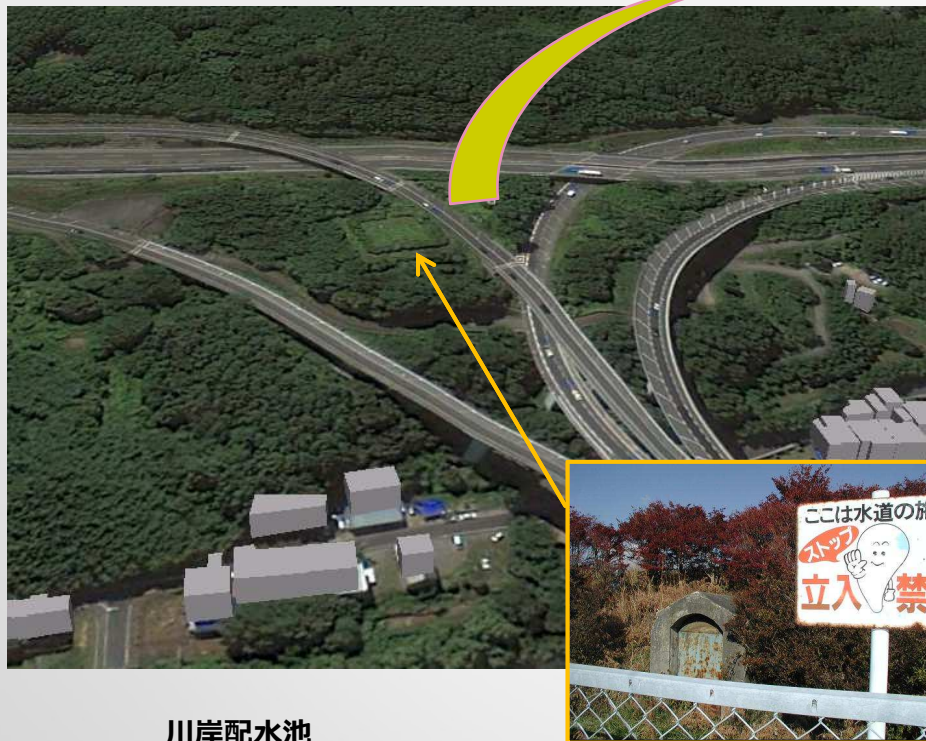
岡谷市の水道施設

R 8.7.2 4
上下水道審議会
資料 2 - 4

大正末期～昭和初期の古い施設も残っており、耐震性などが懸念されます。

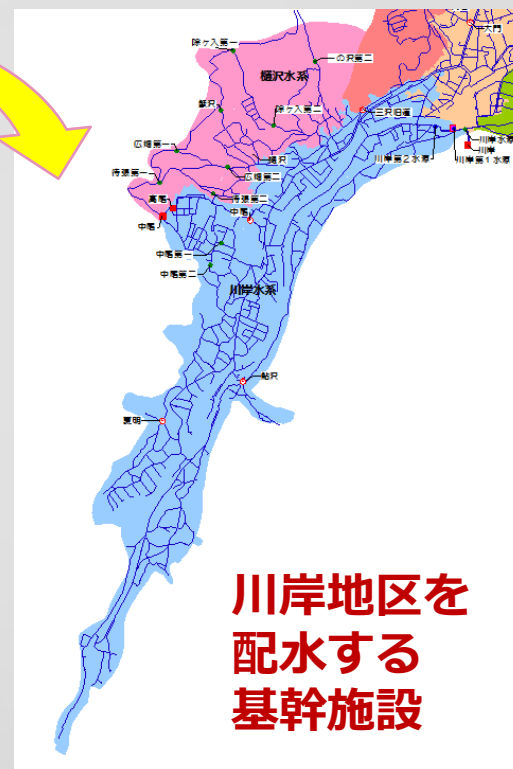


現況の課題 1：川岸配水池の老朽化



川岸配水池

- 配水池容量 1,564m³
(25mプール (360m³) の4.3杯分)
- 大正14年 (1925年) 建設 (100年経過)
- 鉄筋がないコンクリート構造物



立地条件が悪いため、
更新するには移設が必要

- ❁ 耐震性能をみたさないため、地震時等の非常時に応急給水量を確保できない。
- ❁ 岡谷ジャンクションに囲まれた立地条件であるため、地震などにより倒壊した場合の2次災害の影響は大きい。(25mプール約4杯分の水が下流に流出)

現況の課題 2：花岡配水池の老朽化



花岡配水池

- 配水池容量 1,278m³
(25mプール (360m³) の3.6杯分)
- 大正14年 (1925年) 建設 (100年経過)
- 鉄筋がないコンクリート構造物



花岡地区を
配水する
基幹施設

立地条件が悪いため、
更新するには移設が必要

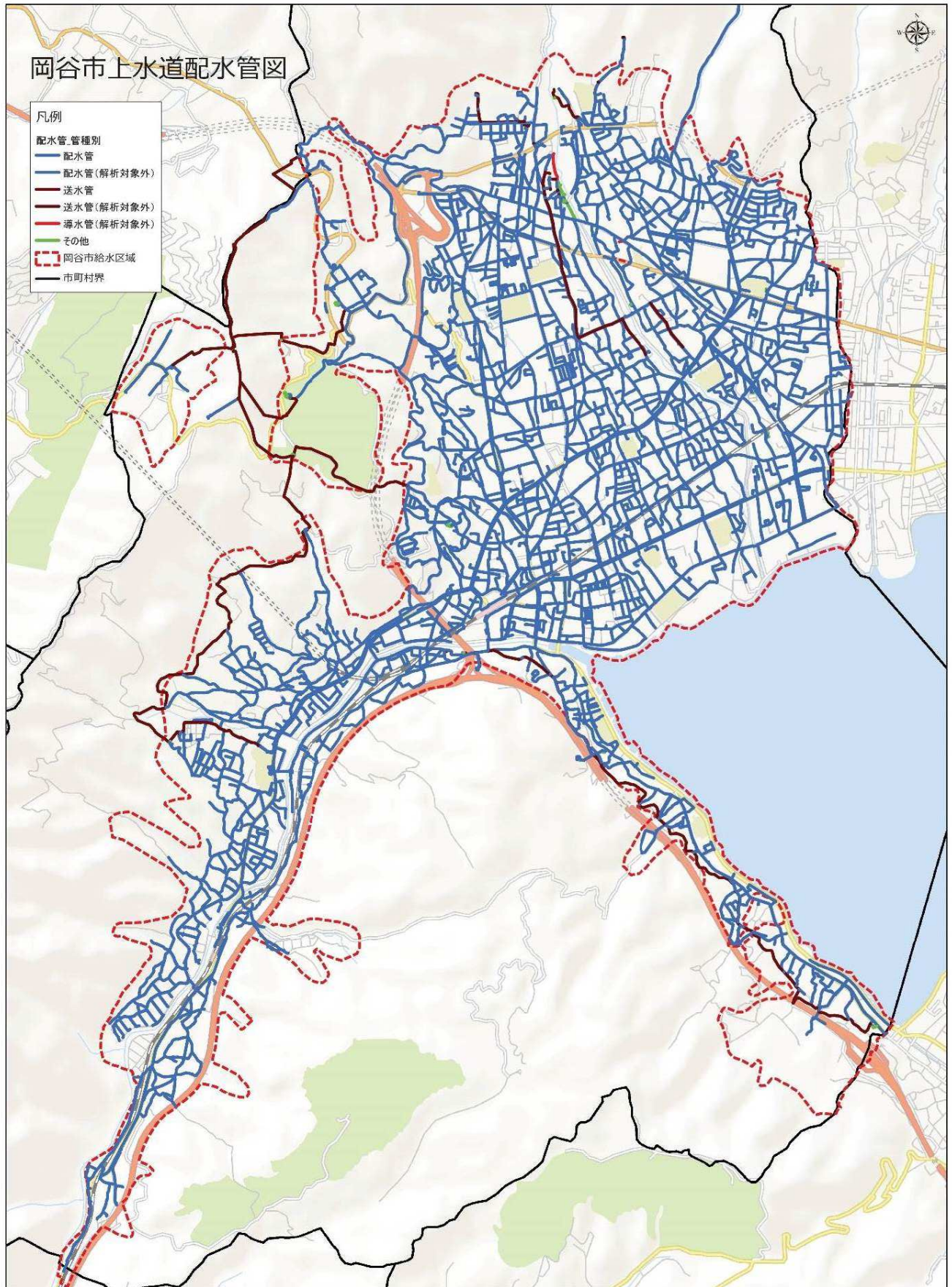
- ❁ 耐震性能をみたさないため、地震時等の非常時に応急給水量を確保できない。
- ❁ 山の斜面にある施設であるため、地震などにより倒壊した場合の2次災害の影響は大きい。(25mプール約4杯分の水が下流に流出)

岡谷市上水道配水管図

凡例

配水管 管種別

- 配水管
- 配水管(解析対象外)
- 送水管
- 送水管(解析対象外)
- 導水管(解析対象外)
- その他
- 岡谷市給水区域
- 市町村界



大きな地震等の災害が発生した場合、水道管が破損し、大規模な断水の被害が予想されます。

岡谷市では、新しく水道管を布設する時や古くなった配水管の取り替えに地震に強い管を布設しています。

また、地震が発生しても可とう性・伸縮があって抜けない継手を使用しています。

